

“使い捨て“から”繰り返し使う”ライフスタイルへ！ びんリユースの可能性と期待

経年的に減少傾向が続いているリターナブルびんですが、
ガラスびんを始めとするリユース容器を活用したビジネスモデルが現れてきています。
びんリユースシステムの可能性を探ります。



リターナブルびんは使用量も比率も減少傾向

ガラスびんは、長期間の使用に耐える安定性と内容物の香味を吸着せず、細菌が付着しづらく衛生性に優れているため、リユースに最適な容器ですが、リターナブルびんの使用量も比率も減少傾向に歯止めがかかっていません。

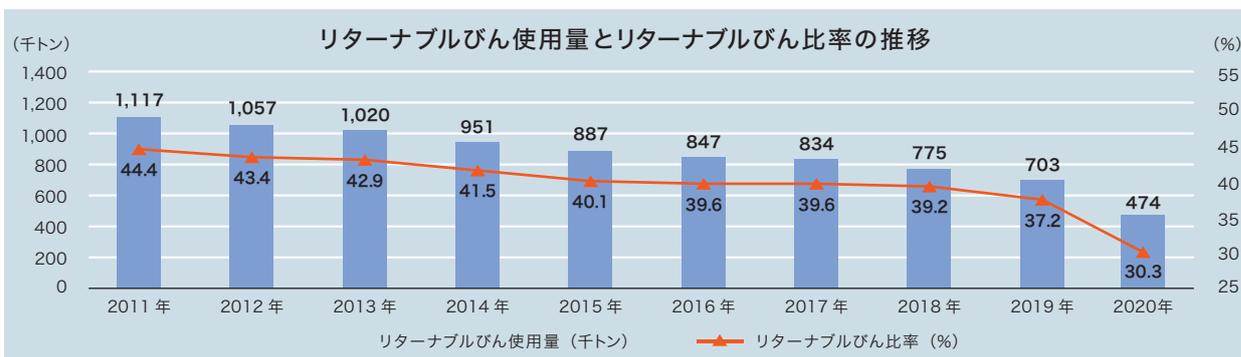
核家族化や単身世帯、有職人口の増加などの世帯構成やライフスタイルの変化を背景に、リターナブルびんの回収に必要なケース単位の購入から単品買いに移行し、スーパーマーケットやコンビニエンスストアなどが主となりネット通販も台頭するなど、空きびんの回収システムを持たない購買接点が増えていることがありと考えられます。

サーキュラーエコノミー型ビジネスモデルの萌芽

当協議会はガラスびんリユースシステムのライフサイクル分析を行い、リユースによるGHG*排出量削減効果を見える化するするとともに、リターナブルびんの回収率と使用回数を上げることで、ガラスびんのウィークポイントである新びん製造時のGHG排出量の影響を軽減できることを示すことができました。また、リユースは究極の資源有効利用であり、容器廃棄物の削減にも大きく寄与します。最近、このように環境負荷の低いリユースシステムを活用した新たなビジネスモデルが出現しています。

*「GHG (Greenhouse Gas)」温室効果ガス

「ガラスびんリユースシステムのライフサイクル分析」
報告書について、詳しくはこちらから→



リターナブル比率 = リターナブルびん使用量 ÷ (国内ワンウェイびん流通量 + リターナブルびん使用量)

リユース容器を活用した 循環型ショッピングプラットフォームの始動

1 CONCEPT & PLATFORM

ライフサイクル全体で循環する サーキュラーエコノミー

循環型ショッピングプラットフォームの構築

Loop Japanのミッションは「捨てるという概念を捨てよう」です。これまで使い捨て容器で販売されていた製品をリユース可能な容器で販売し、使用済み容器を回収・洗浄し、製品を再充填して再び販売する循環型ショッピングプラットフォーム「Loop」を展開しています。「Loop」を通じて使い捨てプラスチックの削減のみならず、「使い捨て文化」からの脱却を目指しています。リユースは面倒という意識を変えるには、「Make re-use feel like disposability」つまり、使い捨てのように便利にできれば、気軽にリユースしてもらえと思っています。

「もったいない」精神の国、日本

ごみ処理問題の正確な認識が必要

日本には、「もったいない」精神があります。家での分別もきちんとして、リサイクルしています。しかし、そのリサイクルが問題。プラスチックのリサイクルは1回きりの熱回収であるサーマルリカバリーが大半でした。日本はインフラも整い、美しい国です。しかし、ごみ問題は現実にあります。この問題の顕在化をしないといけません。うまく行っていると誤認をしている限り、意識も変わりません。問題がある、ということをお伝えしなければなりません。「もったいない」精神がある日本の消費者の意識が変わったら、世界一理想的な社会をつくれるはずで

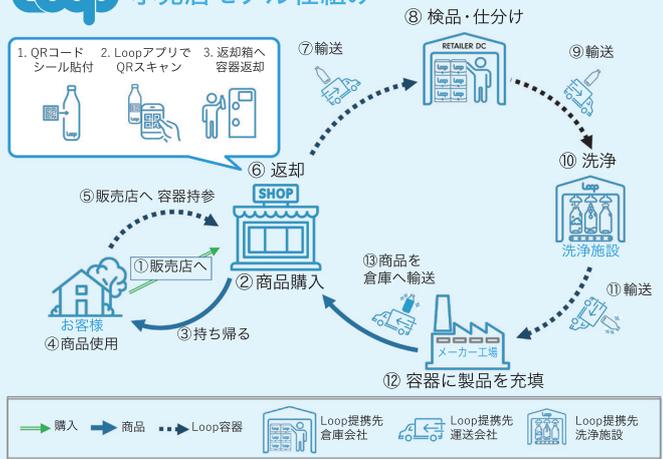
Loop Japan合同会社
アジア太平洋統括責任者
エリック・カワバタ 氏



パートナーシップで解決するプラットフォーム

「Loop」システムがサステナブルであるために収益化は重要です。それには、スケール拡大がカギです。またコストダウンする工夫と同時に新しいブランドパートナーを獲得することも必要です。商品数が増えると、ユーザーが増え、使う容器の量も増えます。空き容器の返却量が増えることで、コストダウンにもつながります。そのためには、なによりもパートナー企業との関係が大切です。

Loop 小売店モデル仕組み



環境に最適なガラスびんは、「Loop」の基本

私たちはリターナブルびんのモデルから学びました。ガラスびんは「Loop」の基本です。リターナブル容器としてのガラスびんは非常に優秀です。安定性が高く、衛生的であり、まさしく洗浄して何回も使うには最適な容器です。なによりも、ガラスびんは内容物の香味を吸着しないので、洗浄後に臭いが残らない。有害なものが溶け出ることもない。環境にも適応した容器だと認識しています。

今後も、リユース容器の利用を通じて、ブランドオーナー企業、流通、消費者のみなさんとともに持続可能な循環型社会を実現させたいと思います。

リターナブルびんを使用した商品例



お洒落なリターナブル容器に入った商品を通して、メーカー、流通、びん商、消費者をひとつに結ぶ「Loop」。環境負荷の軽減のための新しいライフスタイルとして、リユースシステムが注目を浴びています。今回は、その循環型ショッピングプラットフォームを構築した企業と支える企業にフォーカスします。



2 RETAIL STORE SYSTEM

新たなライフスタイルにシフト お客様とともに持続可能な社会を実現

イオン株式会社
環境・社会貢献部 部長
鈴木 隆博 氏



「Loop」との連携で使い捨て容器を削減

私たちイオングループは、約30年前から持続可能な資源利用のために資源使用量のリデュースとしてマイバッグ持参などをお客様に提案してきました。イオンの考えと「Loop」の目指す理念が近いことからその趣旨に賛同し、5月から店頭での「Loop」商品の取り扱いを始めました。「Loop」の売り場は、専用什器と回収ボックスを設置した専用売り場として首都圏を中心に展開しています。現在、展開中の商品は日用品が多く、今後、食品も含めて商品アイテムの拡充と販売ボリュームの拡大を目指していきたいと思っています。



お買い物から新たなライフスタイルにシフト

実際に商品を購入されているのは40代から60代の女性の方が多いように感じていますが、将来的には20代を中心に若い世代が買いやすい販売の仕方や新たなライフスタイルを提案したいと思っています。「Loop」の商品は、機能性に加えてデザイン性が高く、容器がカッコイイ、などの多くの共感をいただいています。いつも購入している商品がお洒落なリユース容器に入って、環境に優しい「Loop」の中にある。お客様自身が使い終わった容器を次回の来店時に返却する、資源循環型の新しいライフスタイルへのシフトに向けて、私たちのやるべきことは明確になってきたと確信しています。

3 BOTTLE WASHING SYSTEM

経験と工夫で培った洗浄品質で 新たな環境貢献を

株式会社トベ商事
代表取締役会長
戸部 昇 氏



「Loop」の求める洗びん品質に長年の経験で適応

Loop Japanとのビジネスは、東京都リサイクル事業協会に東京都から依頼があったことで始まりました。生活クラブのグリーンシステムにも関与していたので、いよいよその時代が来たという印象でした。現在、当社の役割は、回収容器を洗浄・乾燥し、中身メーカーに届けるパッケージにするまでです。「Loop」の回収容器だけを洗う専用洗浄設備を使って対応しています。コンディショナーなど粘度の高い液体が入っている容器もあるので、作業は難しくなりますが、当社は約30年前からさまざまな形のびんに対応してきましたので、その経験と工夫で適応できています。

環境貢献のためにリユースの責任と実践

当社は創業128年のびん商です。洗びん事業は今でいう「リユース」の先駆けであり、当社の礎の事業です。現在も、いろいろな形状のびんに対応できるように洗びんラインの設備投資を行い、リユース事業をさらに発展させようと努力をしています。当社には洗いびんを、新びんと同じように使えるように実践していく責任があります。それには消費者の方の協力も得る必要があります。消費者も「Loop」に登録し、利用することで、SDGsや海洋汚染問題に気軽に貢献できる、この循環型ショッピングプラットフォームは最適だと思います。



ガラスびんをどうビジネスに活かすか、社会資産にするか。
工夫を凝らした新しいリユースシステムの取り組みが広がる

新たなビジネスモデルの萌芽



量り売りとリユース容器で
「ごみゼロ」を

株式会社斗々屋

デポジット制で、お客様にガラスびんをレンタル



斗々屋は、「ゼロ・ウェイト」「オーガニック」「フェアトレード」を核に、量り売りの卸しと小売を展開しています。今年、7月に開店した京都本店ではお客様は容器持参を基本とし、持

参されなかった方にはデポジット制でレンタルをしています。レンタルのガラスびんは、サイズも選べる広口びんや細口びんなど5種類あります。

ガラスびんのリユースを活用したビジネスモデルで、持続可能な循環型社会の実現のために、「ごみゼロ」のライフスタイルを提案しています。



詳しくはこちらから

株式会社斗々屋、男山株式会社の詳細記事については、当協議会Webサイトで近日公開予定です

自主回収によるリユース促進の取り組み



独自の「マイボトルメンバー制度」。
地元でリユースの新しい「場」を提供

男山株式会社

楽しく回収する。目指したのは、持続可能な仕組み

男山株式会社は、約135年前に北海道で創業し、酒造りを通して地域に貢献しています。この度、新しい試みとしてお酒のリターナブルびんを回収する会員制度「みんな



のマイボトルメンバー制度」を、2021年7月6日に開始しました。空のお酒のリターナブルびんを持参してくれた方にポイントを付与し、ポイントが貯まると、お酒と交換ができる仕組みです。目指したのは、楽しみながら回収できる「場」づくり。お酒のリターナブルびんはごみではないことが認識されて、このリユースのループを何回も旭川で回していくのが理想です。



詳しくはこちらから

INFORMATION

ガラスびん3R促進協議会 会長就任のご挨拶

「第4次自主行動計画」および
「2021年度事業計画」に則り
ガラスびんの3Rを推進



ガラスびん3R促進協議会
会長 山村 幸治

第25回通常総会におきまして、会長に就任いたしました山村でございます。就任にあたりまして一言ご挨拶申し上げます。

中国や東南アジア諸国での廃棄物禁輸やパーゼル条約の改正により廃棄物の越境規制が厳格化され、他国に依存した廃棄物処理は困難になってきています。また、海洋汚染や生態系への

影響が懸念されている海洋プラスチックごみは地球規模の問題となっています。

さらに、菅首相の2050年温室効果ガス排出ゼロ宣言によって、脱炭素社会実現への取り組みの要請が急速化してきています。

3Rのすべてに対応でき、何度でも水平リサイクルが可能であり、国内でリサイクルが完結しているガラスびんは、これらの問題の解決に資することができるかと確信しています。

通常総会で承認されました「第4次自主行動計画」とその初年度に当たる「2021年度事業計画」に則り、ステークホルダーと連携してガラスびんの3Rを進めてまいります。

今後も、会員各社・各団体の皆さまのご理解とご協力をいただきながら、各課題に精力的に取り組んでいく所存でございます。何卒よろしくお願い申し上げます。

